

Financial Report

財務情報に見る >> 大阪府立大学の改革

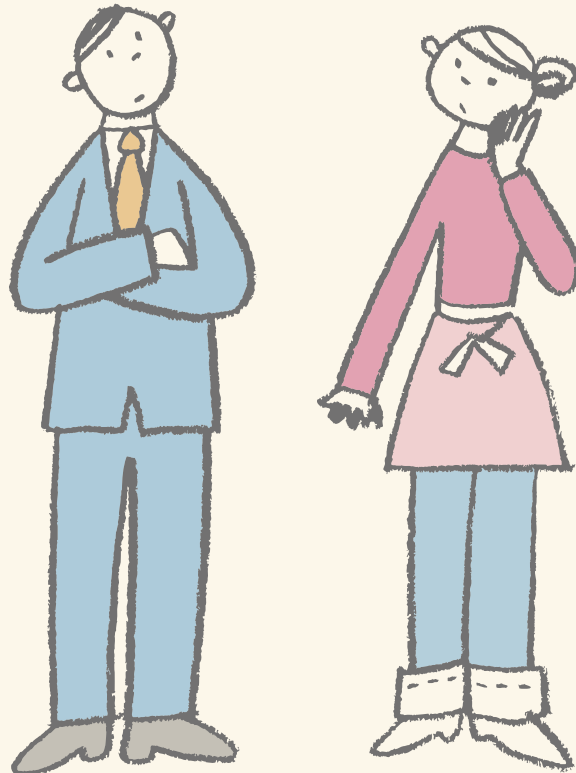
2011

平成22年度
財務レポート





公立大学法人化の後、 大阪府立大学の「改革」は、 どのくらい進んだの？



平成17年度以来、「経営の効率化」に取り組み、 新しい大学に生まれ変わる挑戦を続けてきました。

平成17年4月、大阪府立大学・大阪女子大学・大阪府立看護大学の統合とともに、現在の「公立大学法人大阪府立大学」が誕生しました。公立大学法人化にあたって、第1期中期計画を策定し、“高度研究型大学 -世界に翔く地域の信頼拠点-”を基本理念に掲げ、教育研究の質の向上に取り組みながら、地方独立行政法人のメリットを活かして「経営の効率化」を推進してきました。本冊子では、第1期中期計画の最終年度となった平成22年度の財務状況をご報告するとともに、財務データを通じて、これまでの改革の実績と成果の概要をご説明します。

「公立大学法人化」以降の、大阪府立大学の経営状況を、財務基礎データでご説明します。

| | | | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------------------------|
| 公立大学 法人化 | 平成17年度 | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 第1期 中期計画 最終年度 平成22年度 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------------------------|

経常費用 (単位:百万円)

| | | | | | | |
|--------------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 経常費用合計 | 18,940 | 19,308 | 19,070 | 19,502 | 18,750 | 18,919 |
| ■主な項目 | | | | | | |
| 教育研究経費 (SPC経費(臨時)を除く) | 3,921 (3,892) | 3,892 (3,858) | 4,140 (4,071) | 4,600 (3,876) | 4,099 (4,099) | 4,039 (4,039) |
| 教育経費 | 2,050 | 1,983 | 2,169 | 2,459 | 2,150 | 2,039 |
| 研究経費 | 1,872 | 1,909 | 1,971 | 2,141 | 1,950 | 2,000 |
| 教育研究支援経費 | 397 | 430 | 543 | 387 | 472 | 1,003 |
| 受託研究費・受託事業費 | 614 | 1,056 | 1,153 | 1,216 | 1,420 | 1,124 |
| 人件費 | 12,845 | 12,706 | 11,941 | 11,717 | 11,149 | 11,290 |
| 一般管理費 | 955 | 1,149 | 1,232 | 1,473 | 1,370 | 1,197 |

民間的な事業手法(SPC方式)導入によりコスト削減に努めながら、教育研究環境の整備を進めています。この環境整備に係る費用を除く基本的な教育研究経費は公立大学法人化初年度のレベルを維持しています。

➡ P.8 教育研究環境の整備

人員の効率化を進め、平成22年度は、公立大学法人化初年度と比べ、12%減となりました。

新たな学舎整備等に伴い、一般管理費が増加しました。

経常収益 (単位:百万円)

| | | | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 経常収益合計 | 19,481 | 19,663 | 19,680 | 19,467 | 19,070 | 18,773 |
| ■主な項目 | | | | | | |
| 運営費交付金収益 | 12,684 | 12,283 | 11,863 | 10,763 | 10,463 | 10,350 |
| 学生納付金等収益 | 4,766 | 4,737 | 4,760 | 4,701 | 4,708 | 4,767 |
| 受託研究・受託事業等収益 | 709 | 1,230 | 1,295 | 1,415 | 1,596 | 1,287 |
| 補助金等収益 | 263 | 220 | 413 | 1,284 | 1,002 | 771 |
| 寄附金収益 | 174 | 174 | 154 | 158 | 127 | 122 |
| 獣医臨床センター収益 | 113 | 104 | 93 | 85 | 128 | 170 |
| 資産見返負債戻入 | 523 | 603 | 701 | 594 | 620 | 823 |

運営費交付金は、大学運営のために設立団体(大阪府)より交付されるもので、平成22年度は公立大学法人化初年度と比べ、18%減となっています。

産学官連携等による外部資金の獲得額は大きく増加し、平成22年度は、公立大学法人化初年度と比べ、90%増となりました。

➡ P.9 自己収入の強化

行政サービス実施コスト (単位:百万円)

| | | | | | | |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 行政サービス実施コスト | 20,819 | 17,114 | 16,088 | 16,236 | 15,810 | 18,222 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|

行政サービス実施コストは、さまざまな要因を加味して、皆さまに負担していただいている費用を計算したものです。平成22年度は、公立大学法人化初年度と比べ、12%減となりました。社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

➡ P.9 社会貢献活動

学生数 ※各年度5月1日現在 (単位:人)

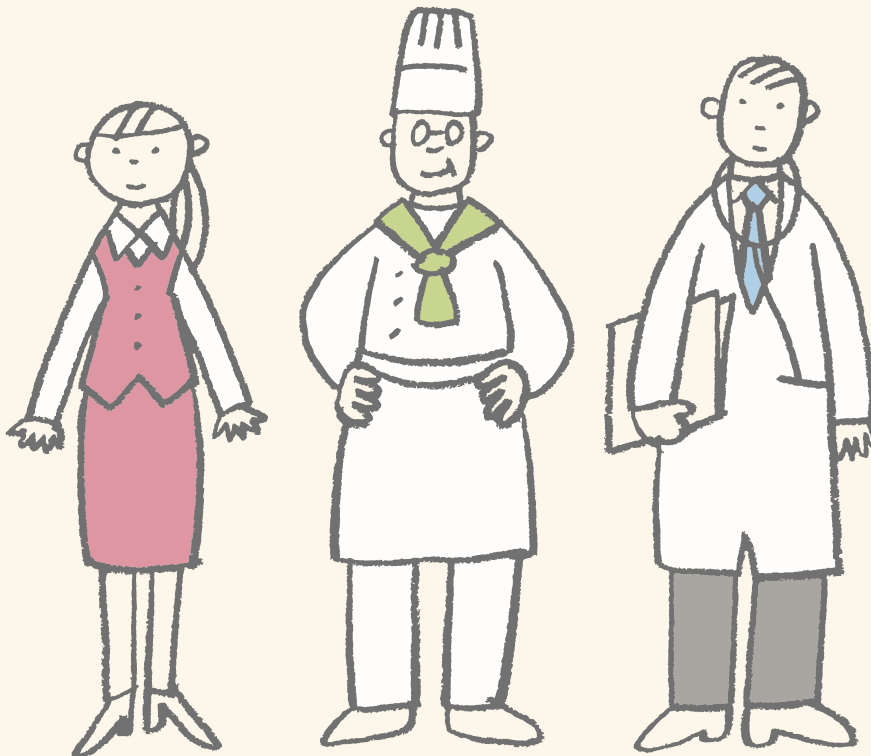
| | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 合計 | 8,018 | 8,039 | 7,959 | 7,916 | 7,949 | 8,000 |
| 学部生 | 6,580 | 6,538 | 6,434 | 6,409 | 6,416 | 6,376 |
| 大学院生 | 1,438 | 1,501 | 1,525 | 1,507 | 1,533 | 1,624 |

教職員数 ※各年度5月1日現在 (単位:人)

| | | | | | | |
|------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|
| 教職員数 | 1,093 | 1,039 | 992 | 970 | 937 | 918 |
|------|-------|-------|-----|-----|-----|-----|



平成22年度の財務状況の
ポイントを分かりやすく
説明してください。



さらなる経営努力を続けながら、
「学域制」の導入に向けた準備を進めました。

平成22年度は、第1期中期計画の総仕上げを行う節目の年となりました。公立大学法人化から6年間にわたる財務内容の改善による財政基盤の成果をもとに、学生の自主学習を支援するためのスペース「ラーニング・コモンズ」の設置や学生の基礎実験設備機器の更新など、教育研究条件の整備に取り組みました。

また、平成24年からスタートする新たな「学域制」の広報活動を積極的に行いました。

まず、公立大学法人会計の特色と、 財務諸表を構成する会計情報についてご説明します。

[公立大学法人会計の特色]

公立大学法人は、授業料等の学生納付金のほか、設立団体（大阪府）からの運営費交付金等によって運営されており、地方独立行政法人法に基づき、財務状況を公開する責任を負っています。

公立大学法人の会計基準は、企業会計に準拠し公共面を加味した国立大学法人会計基準を参考にして作られており、

複式簿記により財務諸表を作成することが義務付けられています。また、公立大学法人は利益の獲得を目的とせず、運営費交付金を受けて事業を実施する法人であるため、計画通りの業務運営を実施することで損益が均衡する仕組みが、会計制度の基本となっています。

[財務諸表を構成する会計情報]

公立大学法人では、企業会計に準じた「貸借対照表」、「損益計算書」、「キャッシュ・フロー計算書」のほか、税金を主財源としているため、企業会計にはない「行政サービス実施コスト計算書」などの作成も義務付けられています。これ

らの財務諸表は、府民の皆さまに閲覧していただけるよう大学内事務所に備え置くとともに、大阪府公報や大阪府立大学のWebサイトでも、広く一般に向けて公開しています。

| | |
|----------------------------|---|
| <p>貸借対照表</p> | <p>貸借対照表(バランスシート)は、決算日現在(3月31日)における財政状態を表すための書類です。大阪府立大学の持つすべての資産、負債および純資産について記載されています。資産とは、保有している財産と権利を表すもので、資金の運用形態(資金を何に使ったか)を示しています。負債と純資産については、資金の調達源泉(資金をどこから得たか)を示しており、負債は返済が必要なもの、純資産は返済が不要ものとなっています。</p> <p>➡ P.5 貸借対照表の概要</p> |
| <p>損益計算書</p> | <p>損益計算書とは、事業年度期間(4月1日から3月31日まで)のすべての費用と収益を記載した書類です。公立大学法人は「損益均衡の原理」を基本としており、損益計算書については、企業会計のように経営成績を示すためではなく、運営状況を明らかにし、運営実績の評価に資することを目的としています。</p> <p>➡ P.6 損益計算書の概要</p> |
| <p>キャッシュ・フロー計算書</p> | <p>キャッシュ・フロー計算書とは、事業年度期間における資金収支の状況を、活動区分別に表示して、大阪府立大学の活動内容を資金の流れから表すものです。業務活動、投資活動、財務活動の3つに区分されています。</p> |
| <p>行政サービス 実施コスト計算書</p> | <p>行政サービス実施コスト計算書とは、皆さまに負担していただいているコストを表す書類です。実施コストの中には、損益計算上の費用額に加えて、引当外退職給付増加見積額や引当外賞与増加見積額、機会費用を加味して表示します。</p> |

財務諸表の「貸借対照表」と「損益計算書」の概要で、平成22年度の財務状況をご説明します。

[貸借対照表の概要]

事業年度末時点の財政状態を表しています。

(単位:百万円)

| 資産の部 | | | 負債の部 | | |
|-----------------------------|---------------|---------------|-------------------------|---------------|---------------|
| | 平成21年度 | 平成22年度 | | 平成21年度 | 平成22年度 |
| 固定資産 | 61,890 | 61,715 | 固定負債 | 24,683 | 26,228 |
| 有形固定資産 | 47,094 | 47,915 | 資産見返負債 ^{※2} | 10,046 | 11,180 |
| 建物 | 35,794 | 35,107 | 退職給付引当金 | 0 | 449 |
| 工具器具備品 | 3,394 | 4,370 | 割賦未払金(長期) ^{※1} | 14,225 | 13,196 |
| 図書 | 7,321 | 7,202 | その他 | 413 | 1,403 |
| その他 | 584 | 1,236 | 流動負債 | 4,959 | 5,340 |
| 無形固定資産 | 211 | 327 | 運営費交付金債務 | 408 | 0 |
| 特許権・商標権・産業財産権仮勘定 | 178 | 230 | 寄附金債務 | 589 | 723 |
| その他 | 33 | 96 | 割賦未払金(短期) ^{※1} | 1,711 | 1,111 |
| 投資その他資産 | 14,585 | 13,474 | その他 | 2,251 | 3,506 |
| 未収財源措置予定額(長期) ^{※1} | 14,220 | 13,196 | 負債合計 | 29,642 | 31,567 |
| その他 | 365 | 278 | 純資産の部 | | |
| 流動資産 | 5,904 | 5,562 | 資本金 ^{※3} | 35,147 | 35,147 |
| 現金及び預金 | 3,848 | 2,905 | 資本剰余金 ^{※4} | 1,674 | 213 |
| 未収入金 | 310 | 1,207 | 利益剰余金 ^{※5} | 1,292 | 300 |
| 未収財源措置予定額(短期) ^{※1} | 1,115 | 1,106 | (当期末処分利益) | (384) | (4) |
| その他 | 630 | 344 | その他 | 38 | 49 |
| 資産合計 | 67,793 | 67,277 | 純資産合計 | 38,151 | 35,710 |
| | | | 負債・純資産合計 | 67,793 | 67,277 |

※()は、内数

※1 新たな施設整備をSPC方式等により長期割賦で行い、この割賦代金は設立団体(大阪府)により財源措置されます。そのため、未収財源措置予定額及び割賦未払金を、それぞれ資産と負債に計上しています。

※2 資産見返負債は、運営費交付金、国等からの補助金等により償却資産を取得した場合に計上される負債です。

※3 資本金は、設立団体(大阪府)から出資された建物相当額です。

※4 資本剰余金は、設立団体(大阪府)からの施設整備補助金や、目的積立金による施設整備額などを計上しています。

※5 利益剰余金は、公立大学法人の運営によって生み出された成果としての利益をいいます。

利益剰余金の処理について

平成22年度は第1期中期目標期間の最終年度のため、利益剰余金はすべて積立金として処理することになります。大学の経営努力として知事の承認を得て、第2期中期目標期間へ約3億円の繰越をすることとなりました。

「貸借対照表」「損益計算書」の詳細、「キャッシュ・フロー計算書」、「行政サービス実施コスト計算書」については、Webサイトで開示している「財務諸表」を参照ください。

➡ <http://www.osakafu-u.ac.jp/info/disclosure/zaimu/>



[損益計算書の概要]

事業年度の運営状態を表しています。

(単位:百万円)

費用の部

| 経常費用 | 平成21年度 | 平成22年度 |
|----------|--------|--------|
| 教育経費 | 2,150 | 2,039 |
| 研究経費 | 1,950 | 2,000 |
| 教育研究支援経費 | 472 | 1,003 |
| 受託研究費 | 1,327 | 1,004 |
| 受託事業費 | 93 | 121 |
| 人件費 | 11,150 | 11,290 |
| 一般管理費 | 1,370 | 1,197 |
| 財務費用 | 240 | 264 |

経常費用合計 18,750 18,919

臨時損失 8 496

当期総利益 384 4

収益の部

| 経常収益 | 平成21年度 | 平成22年度 |
|----------|--------|--------|
| 運営費交付金収益 | 10,463 | 10,350 |
| 学生納付金等収益 | 4,707 | 4,767 |
| 受託研究等収益 | 1,500 | 1,163 |
| 受託事業等収益 | 95 | 124 |
| 補助金等収益 | 1,002 | 771 |
| 寄附金収益 | 127 | 122 |
| 資産見返負債戻入 | 620 | 823 |
| 財務収益 | 6 | 5 |
| 雑益 | 550 | 648 |

経常収益合計 19,070 18,773

臨時利益 8 276

目的積立金取崩額 64 370

■主な変動要因

〈貸借対照表〉

●建物、工具器具備品等の有形固定資産は、国等補助金や目的積立金などにより、植物工場研究センター、ラーニング・commonsや健康管理センターなどの施設整備を行う一方、既存施設の減価償却費や工具器具備品等の除却などにより、対前年度で約8億円増となりました。

(目的積立金^{*}を活用した整備等により、利益剰余金は対前年度で約10億円減となりました。)

●運営費交付金債務は、平成22年度が第1期中期目標期間の最終年度にあたりますので、精算のため全額を取崩し、これを収益化しました。

^{*}目的積立金とは、法人が獲得した利益のうち、経営努力の認定を受けたものについて、中期計画で定められた用途の範囲内において、法人が自由に使用できるものです。

〈損益計算書〉

●教育研究支援経費は、次世代情報システムの構築や貴重図書データのデータベース化等により、増加となりました。

●受託研究は、平成21年度は国の補正予算による大型プロジェクトが増加していたことや、平成22年度には国の事業仕分けによる制度変更が行われたことなどにより、対前年度で約3億円減となりました。

●国等からの補助金は、植物工場研究センターの建設補助金等の資産計上を合わせると対前年度で52%増となりました。

●目的積立金の活用により、学生基礎実験設備の更新や電子ジャーナルのバックファイルの購入等を行い、教育研究環境の充実を行いました。



「教育研究の質」を 高めるために、どのような 努力をしていますか？



社会とのつながりを大切にしながら、 「大学の教育研究等の質の向上」に取り組んでいます。

大阪府立大学では、第1期中期計画の柱となる重要課題として、「大学の教育研究等の質の向上」に取り組んできました。教育内容、研究水準の向上はもとより、社会貢献や国際交流も積極的に推進し、企業との共同研究・受託研究などを通じて外部資金の獲得拡大に努めるなど、さまざまな実績を上げています。また、新たな事業手法を導入して、資金を最大限に活かしながら、教育環境の整備を行っています。第2期中期計画においても、一層の経営努力を続けながら、大学における教育研究活動の充実・発展のための基盤強化を進めていきます。

新たな事業手法を導入し、コスト削減に努めながら、「高度研究型大学」にふさわしい環境の整備を進めています。

[教育研究環境の整備]

施設整備プラン(キャンパスプラン)の推進

大阪府立大学の施設については、昭和20年代・30年代に建設されたものが数多く存在することから、第1期中期計画において施設整備プラン(キャンパスプラン)を策定し、



獣医学舎(りんくうキャンパス)

高度研究型大学にふさわしい教育研究環境の整備を進めました。PFI*的事业手法により、効果的・効率的な事業運営に努めながら、先進性はもちろん、快適性・安全性にも配慮した「B3棟 教育棟」、「獣医学舎(りんくうキャンパス)」、「C17棟 先端バイオ棟」、「A13棟 サイエンス棟」が誕生し、教育研究の質の向上に寄与しています。

※民間の資金、ノウハウなどを活用し、公共施設等の設計・建設・改修・更新や維持管理・運営を行う公共事業の手法



サイエンス棟

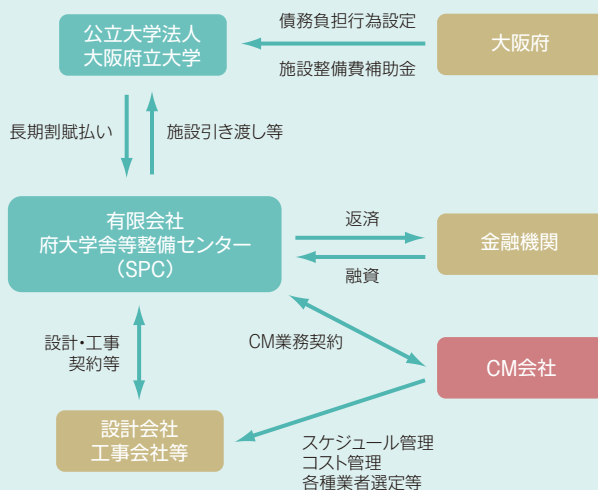


先端バイオ棟

施設整備の事業手法の導入

公立大学法人は、地方独立行政法人法において、設立団体(大阪府)以外からの長期借入れや他団体への出資ができないという制約があること、事業コストの削減や資金需要の平準化を図る必要があることなどから、次の事業手法で施設整備を行いました。

1. 大阪府立大学に代わって整備事業を行う主体となる「特別目的会社(SPC)」を設立する。
2. 大阪府立大学は、「SPC」から建物引き渡し後、長期割賦払いを行う。
3. 大阪府から、順次、長期割賦払いに対応した施設設備費補助金の交付を受ける。
4. 「SPC」は、金融機関から資金調達を実施し、「建設マネジメント(CM)会社」を活用して、設計会社・工事会社等に事業を発注する。



国内最大級(完全人工光型)の「植物工場研究センター」が誕生

平成23年4月、経済産業省・農林水産省の支援を受けて中百舌鳥キャンパスに誕生した「植物工場研究センター」は、環境および生育モニタリングを基礎とした高度な環境制御を行うことにより、野菜等の植物を天候や季節に左右されず生産することができる栽培施設です。完全人工光型では国内最大級の次世代先進研究開発拠点として注目されており、同センター推進のために結成したコンソーシアムには、100社を超える企業が参加しています。



研究水準の向上と、自己収入の強化を積極的に推進し、 産学官連携の拡充に取り組んでいます。



[社会貢献活動・国際交流]

「開かれた大学」を目指す活動の推進

大阪府立大学では、地域社会に対して「開かれた大学」を目指して、社会人の生涯学習を支援する公開講座、高等学校等との連携、産学官連携、府政との連携、地域の大学との連携など、さまざまな取り組みを進めています。また、国際交流も積極的に推進し、JICA(国際協力機構)を通じた研修生の受け入れ等を行っています。それらの活動が高く評価され、日本経済新聞社産業地域研究所による全国大学の地域貢献度調査(平成21年度)では、総合第4位にランキングされました。平成23年4月には、第2期中期計画に基づき、「地域連携研究機構」、「国際交流推進機構」を新しく設置し、取り組みのさらなる強化を進めています。



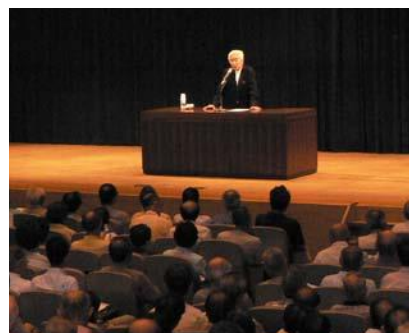
なかもず科学の泉(学生による小中学生への実験授業)



外国人研究者との共同研究



各種イベントでの国際交流



公開講座(社会人の生涯学習支援)

[自己収入の強化]

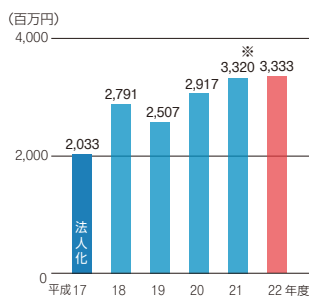
外部研究資金・特許権などの獲得状況

第1期中期計画においては、外部研究資金その他の自己収入の拡大による経営基盤の強化を推進し、知的財産ブリッジセンターの充実などに積極的に取り組んだ結果、目標を大幅に上回る成果を上げることができました。特許取得数、

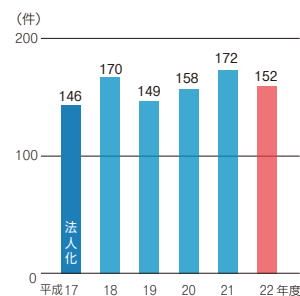
ロイヤリティ収入についても着実に伸長しています。

第2期中期計画においても、獣医臨床センターの診療報酬を見直すなど、自主財源の獲得に向けたさらなる施策を検討していきます。

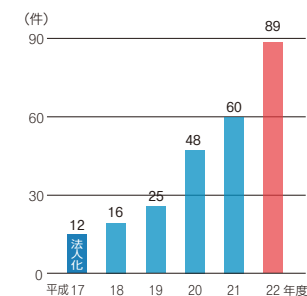
外部研究資金獲得額(契約ベース)



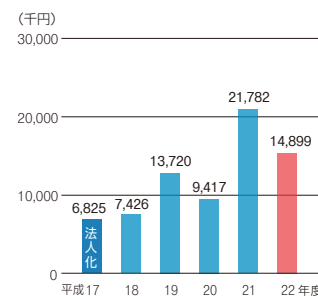
特許出願件数



特許取得累計



ロイヤリティ収入



※平成21年度はこの他、植物工場研究センター整備分の11億円を獲得

平成24年春、さらなる「改革」のステージへ。 大阪府立大学は、新たな学びをスタートさせます。



[学域制の導入]

府民に愛され、信頼され、高く評価される「高度研究型大学」の創造

大阪府立大学では、平成24年から学域制をスタートします。旧来の「学部・学科」体制からより幅の広い「学域・学類」体制へと転換を図り、「現代システム科学域」「工学域」「生命環境科学域」「地域保健学域」からなる「4学域・13学類」の新たな学びのステージを創造し、大学の改革を加速していきます。この4学域は、いずれも広い学問分野を包含していますが、

中でも「現代システム科学域」は、専門性と実践力はもとよりマネジメントや国際性を兼ね備えた、持続可能社会の実現をリードする人材の育成が必要になるとの観点から、理系をベースに文系を融合させ、新たな領域として構成します。また、「現代システム科学域」の人材育成の理念を全学に広めるため、他学域に副専攻でカリキュラムを提供します。



[大阪府立工業高等専門学校との統合]

創造的で実践的なものづくり技術者を幅広く育成

昭和38年4月の開校以来、寝屋川の地で約8,000名の卒業生を輩出してきた「大阪府立工業高等専門学校」が、平成23年4月1日より、公立大学法人大阪府立大学に移管され、「大阪府立大学工業高等専門学校」として新しいスタート

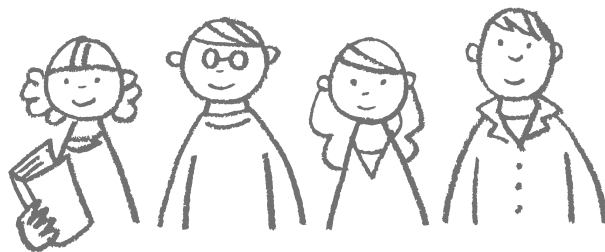
を切りました。今後は、相互連携による社会的ニーズに対応した授業や、先端技術を含めた専門教育を実践し、その成果を社会に積極的に還元する仕組みの構築などに注力していきます。

[創基130年記念事業]

130年の歴史を未来へつなぐプロジェクトの推進

大阪府立大学は、明治16年(1883年)の獣医学講習所設置から数えて、平成25年(2013年)に創基130年を迎えます。今後、次代の礎を築くため、さまざまな記念事業を展開していく予定です。また、「大阪府立大学創基130年記念基金」を設置し、地域・国際交流拠点の整備や在学生・留学生への支援を計画しています。





財務情報に見る >> 大阪府立大学の改革

Financial Report 2011



公立大学法人

大阪府立大学

OSAKA PREFECTURE UNIVERSITY

高度研究型大学～世界に翔く地域の信頼拠点～

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1番1号

TEL. 072-252-1161(代)

<http://www.osakafu-u.ac.jp/>